



ふくい 企業の挑戦

厚さ0.6mmのチタンシートをレーザーでくりぬき、後は曲げながら眼鏡枠を形づくる。約250工程あるとされるメタル眼鏡枠製造を、金型を不要にして一気に6〜7工程にまで減らした。オンビート(福井市板垣3丁目)の高田政和社長は「金型を捨てることで少量多品種生産が可能となった。その分、デザインに力を入れた」と話す。

オンビート(福井市)

ものは、パッド(鼻当て)とモタン(耳当て)ぐらいだ。この製法により、枠本体で4割程度という超軽量を実現した。一般的なチタン合金の眼鏡枠の3分の1ほどの軽さ。さらにろう付けなどがないことから眼鏡枠に余分な負荷が掛からず、曲げた素材の反発力により、柔らかい掛け心地を提供する。従来工法をまったく無視した新工法に3年ほど前から取り組んだ。高田社長は「マーケットが細分化され個性が求められる中で、大

レーザー使用、工程短縮



金型をなくした眼鏡枠づくりに取り組むオンビート 福井市板垣3丁目の同社

規模メーカーにはできない製法にたどり着いた。

「一番の特徴は生産リードタイム(かかる時間)の短さ」と高田社長は強調する。従来なら4カ月程度かかっていた製造期間が、2〜3週間と短くなり、その分、最新の流行やニーズを取り入れた商品づくりに力を注ぐことができる。▽高価な金型がないため少量多品種生産でもコスト面で見合う▽在庫リスクを極力抑えられると、経営面でのメリットも大きい。

新たな製法により、釣りやゴルフ用のサンクグラスなど、目的別の少量限定の眼鏡販売が可能となった。

「アイデアを否定しないのがうちの社風。ゆくゆくは生産リードタイムを1日にしたい。消費者が望む眼鏡をすぐに提供できれば、こんなにうれしいことはない」。新たな挑戦は既に始まっている。

「金型」不要の眼鏡枠